

特集

うそ・ウソ・嘘

「嘘」は身近で興味深い行動です。「ウソつき！」という言葉のように、嘘には何かネガティブな感じもありますが、一口に「嘘」といってもさまざまです。意図的に欺く反社会的な嘘だけでなく、相手を守ろうとする向社会的な嘘もあるでしょう。嘘をつくだけでなく、嘘を見破ることも重要です。

それでは心理学では、嘘をどのようにとらえ、研究されてきたのでしょうか。また、何歳頃からどのような「うそ」が見られ、どのように発達していくのでしょうか。さらに、脳を調べる研究も進んでいます。教育場面に視点を移すと、「うそをつく子」は教育相談でも先生方が対応に苦慮されている例として話題になります。そのような子どもにはどのように対処すればよいのでしょうか。これらの新しい研究から、嘘がネガティブに感じられるものだけではなく、人間の本質に迫る心の働きである一面ももつことが見えてくることでしょう。

本特集では、社会心理学、発達心理学、脳機能画像研究、臨床心理学の視点から、4人の著名な先生方に嘘に関わる研究を紹介していただきました。

(林 創)